

信頼性の高い JFS 規格は 取引先へのオプションになる！



JFS-B 規格適合証明取得 株式会社阿波市場（わかめ等の加工）

株式会社阿波市場様は、徳島県鳴門市において、わかめなどの海産物の加工を中心とした事業を展開しておられます。わかめの塩蔵加工に関しては、昔ながらの手作業にこだわっており、極端なオートメーション化は進めていません。そのようにして加工されたわかめは、品質を重視する全国のクライアントに支持され、大手スーパーとの取引実績もあります。わかめだけではなく、徳島名産のさつまいもである鳴門金時のペースト生産、鮮魚の加工なども行っています。通販事業にも注力されており、自社商品を直接エンドユーザーに提供する体制を確立されています。創業は2008年であり、老舗も多いわかめ加工メーカーの中では比較的新しい企業に分類されますが、事業の多角化なども積極的に進めており、業績を順調に伸ばしておられます。食品としてのわかめ加工という分野において高い評価を獲得していますが、わかめを使用した基礎化粧品も開発しており、新商品の研究開発に余念がないという点も特徴的です。2024年2月に鳴門市の第三工場において JFS-B 規格を取得されました。今回は、規格の取得にいたった背景や狙い、規格を活かした今後の展望などについて、代表の上野伸介様と現場で JFS-B 規格の取得のための動きを主導された安崎恵美様にお話をうかがいました。

—今回 JFS-B 規格を取得された背景について教えてください。

上野社長（以下上野）：新しく第三工場を建設するにあたって、何かしらの認証を取得しようと考えていました。当初は別の認証を考えていたのですが、以前からお世話になっている方から「JFS 規格の方が良いのではないか」というアドバイスをいただき、検討してみることになりました。JFS 規格について色々調べているうちに、この認証（適合証明）の方が当社のクライアントに食品衛生をアピールするのに効果的ではないかと考えるようになり、取得を決断した次第です。

—取得を検討するまで、JFS 規格のことはご存じなかったのでしょうか？

上野：お世話になっている方からお話をうかがうまで、聞いたことがなかったですね。他の認証（適合証明）に比べて、知名度がまだ低いかなという印象を抱いています。品質保証などの担当者の方はご存じだと思うのですが、メーカーの営業担当の方などにはそこまで認知されていないのではないのでしょうか。取得した企業としては、もっと積極的に広報をして知名度を上げていただきたいですね。

—JFS-B 規格の取得に対するクライアントからの反応はどのようなものでしたか？

上野：規格を取得したばかりなので、まだこれからという感じです。食品安全への意識も社会全体が高まっていますし、一定の評価はしていただけるであろうと期待しています。いくら「食品衛生は徹底しています」と言っても、それを証明する規格がなければ納得してもらうのは難しい面があるので、取得した意味は大いにあると考えています。

代表取締役
上野伸介氏





—JFS-B 規格の取得にいたるまでの取り組みで苦労された点がありますか？

安崎：私が現場で JFS-B 規格の取得に向けた動きを主導しました。普段は総務の仕事をしており、何かしらの認証（適合証明）を取得した経験がなかったので、詳しい方にアドバイスをいただいたりしながら進めていきました。本社工場で過去に HACCP を取得していたので、その時の書類などを活用出来たのは助かりましたね。過去に何かしらの認証（適合証明）を取得しており、その書類が残っていれば、かなり役に立つのではないかと考えています。個人的には、複数の社員でチームを組んで取り組みを進めれば、もっとスムーズにやれるのではないかと感じています。

—JFS-B 規格を活かした今後のビジョンについてお聞かせください。

上野：既存のクライアントに対する強力なオプションとして活用していこうと考えています。水産業界というのは、小規模な事業者が多いということもあり、こういった規格の取得などにあまり積極的でない面があります。だからこそ、JFS-B 規格を取得しているということが会社の優位性に繋がるのではないのでしょうか。もちろん、既存のクライアントに対してだけ

ではなく、新規顧客にアプローチする際にも大いに活用していくつもりです。やはり、信頼性の高い規格を取得するというのは、企業としての大きな武器になると感じています。

—今後、商品の輸出なども検討されているのでしょうか？

上野：間接的にはありますが、現在でも本社工場で生産した商品の一部をアメリカに輸出しています。今後については、まだ具体的なビジョンはありませんが、せっかく JFS-B 規格も取得したことで、さらに輸出を強化していくという選択も十分に考えられます。決して輸出メインの会社ではないのですが、その分だけ成長の余地も大きいのではないのでしょうか。こういった選択が出来るというのも、JFS-B 規格を取得したメリットですね。

—JFS-B 規格を取得したばかりですが、これから優先的に取り組みたいことは何でしょうか？

上野：現場の社員の意識改革ですね。規格を取得する動きに関わってくれた社員の意識は大きく変わりましたが、それ以外の社員については、まだ十分ではないと感じています。せっかく規格を取得しても、社員の意識がそこに追いついていないようでは意味がないと考えています。わかめの加工などは、多くの工程で人の手が加わる昔ながらのやり方にこだわっていますし、大切なのは人なのです。実際に現場で食品を加工してくれる社員の意識を、規格にふさわしいレベルにまでしっかりと引き上げることが最優先ですね。以前から食品衛生に対する意識が高い社員ばかりですから、きっと大丈夫だろうと思います。

—JFS 規格の取得を検討している企業へのメッセージをお願いします。

上野：JFS 規格を取得するというのは、社員の意識を改革する絶好のチャンスだと考えています。社会全体で食品衛生に対する意識が高まっており「これまで通りでいいや」が通用しにくくなっている状況です。そんな状況に対応するためにも、JFS 規格のような信頼性の高い規格の取得にチャレンジし、取得に向けた取り組みに、出来るだけ多くの社員を巻き込むことが重要だと考えています。規格の取得に向けた取り組みに加われば、必然的に社員の食品衛生に対する意識は変わっていきます。一種の社員教育のようなものですね。ちょっと目立ちにくいかも知れませんが、JFS 規格の取得にはそんなメリットもあるのではないのでしょうか。

—本日はありがとうございました。



Company Profile

社名 株式会社阿波市場
代表 上野伸介
住所 第三工場
〒772-0022
徳島県鳴門市市里浦町粟津字西開 38-1
創業 2008年12月
URL <https://awaichiba.com/>